



図2

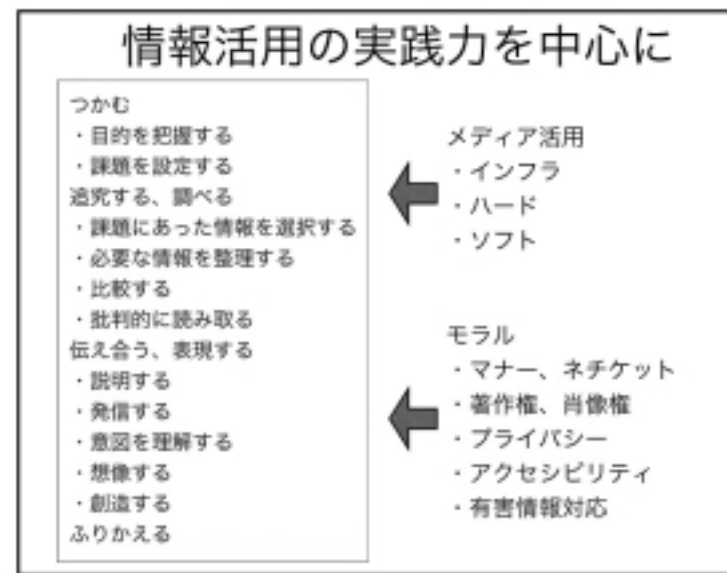


図1

国語と情報教育の関係

金沢大学教育学部教育実践総合センター 助教授

中川 一史

○ 情報活用の実践力

情報化の進展に対応した初等中等教育の在り方についての協力者会議では、情報活用能力を「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の三つに整理して情報教育の柱として位置づける提案を行っている。この中で、「情報活用の実践力」とは、「児童生徒が、自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断し、主体的に収集・表現・処理・創造し、受け手の状況などをふまえながら発信・伝達できる能力」を意味する（図1）。

情報活用の実践力は、国語をはじめとして、総合的な学習の時間や社会科などのさまざまな活動において頻繁に埋め込ま

れている。特に国語では、クロスする部分がかなりある（図2）。では、国語との関連をどのように考えていけばいいのだろうか？

○ 国語から情報活用の実践力へのシフト

二年生に『町の物語』を探る（第五单元）という教材がある。地域に眠っているエピソードを取材し、掘り起こし、表現する活動だ。

これを文章として書くなら、あくまでも要点をわかりやすく文章で表現できるかどうか勝負だ。しかし、これをひとたび交流している隣の小学校三年生の子どもたちに伝えようとなると、状況は変わってくる。文章としての完成度は高くとも、そのままでは小学校三年生には伝わらない。言い回しを平易にしたり、説明のための実物を用意したり、クイズを入れたり……小学校三年生という相手を想定して伝え方を工夫しなくてはならなくなる。いったい小学校三年生はどんな言葉がわからないのか、前もって作戦会議をする必要も出てくる。妹や弟が小学校の同年齢にいるクラスの友達がいれ



トピックで見る 国語と情報教育の領域

- | | |
|------------|---------------|
| ○ストーリーテリング | ○パンフレット |
| ○スピーチ | ○新聞 |
| ○ブックトーク | ○ガイドブック |
| ○ディベート | ○アルバム |
| ○討論 | ○ポスター |
| ○報告書 | ○ビデオクリップ |
| ○感想文、説明文 | ○インタビュー、メモ |
| ○アンケート作成 | ○ポスターセッション |
| ○手紙 | ○パネル・ディスカッション |
| ○図書館の利用 | ○プレゼンテーション |
| ○辞典の活用 | ○メール |
| | ○テレビ会議 |

図3

ば、早速取材をしなくてはならない。

また、パンフレットとしてまとめようとするならばどうだろうか。要点をわかりやすくまとめるのはいつまでもないが、パンフレットではキャッチコピーや写真などのレイアウト、色の使い方で、工夫すべき点は多岐にわたる。パソコンで作成し、広く発信するとなると、さらにデジタルデータの加工や配布方法の工夫まで視野に入れる必要が出てくる。

ここまでくると、国語の領域から情報活用の実践力をどのようにつけるかという境界に踏み出している。このようなトピックは、図3のようにいくつもあり、このトピックをどのように位置づけ、どこまでウェイトを置くのか、どの場合で方法を学び、どこで活用するかについては、教師の判断にかかっているわけだ。

○縦のつながり、横のつながりを考える

調べる力にしても、伝え合う力にしても、題材をかえて何度も出てくる。これを国語担当教師が、系統的につけたい力

の一覧としてどれだけ共通理解がもてるかにかかっている。

情報活用の実践力は、総合的な学習の時間であれ教科学習であれ、まさにベースとしてつけるべき力なのだ。多くの教科、総合的な学習の時間の学習活動に埋め込まれている。

そのような意味では、国語、社会、総合的な学習の時間、技術、家庭などを中心として、横のつながりを教師が意識してほしい。例えば、「インタビューを行う」「プレゼンテーションをする」という活動は国語でも社会でも総合的な学習時間でも、一年間で何度も出てくる。それらをどのように関連させ、前の経験が生かされるように学習活動をデザインするのか、教科担任制の中学校では、学校ぐるみで検討する必要があるだろう。

最後に、情報活用の実践力は、当然小学校の国語や総合的な学習の時間で子どもたちは力をつけて中学校にあがってきている。これを見越して意識する必要があるのだ。そうしないと、「先生、こんなことはとくに小学校でやってきたよ。」と言われかねないことになる。